LA SPORTIVA MAGAZINE

Vol. 01

LA SPORTIVA®
innovation with passion

PASSION

トップエンドの本質は成功ではなく挑戦だ。

前に進みたいという願望や困難を私は恐れない。私はそれに魅力を感じている。

難しさは私が登る理由。

私はトレーニングと準備、忍耐力で遅かれ早かれ目的を達成するだろう。

Adam Ondra

INNOVATION

イノベーションは、エンジニアリングと複雑なアルゴリズムとは無関係です。

少なくともLa Sportivaのやり方ではありません。

それはむしろ、アスリートや厳しい山へ行く登山家の必要としているものから作られています。

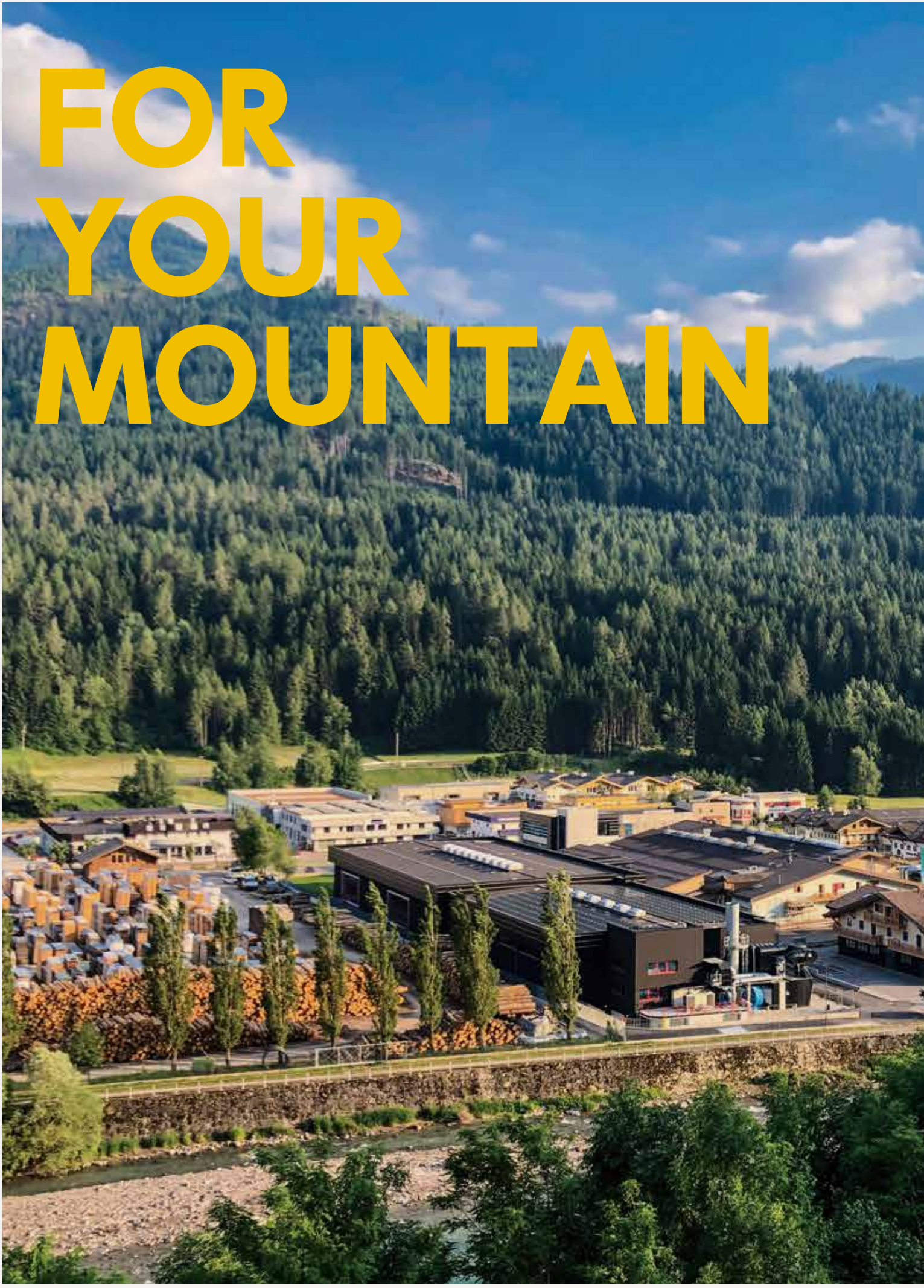
彼らは自分たちの限界を越え、前へ進もうとしており、工場へ来た際にはその挑戦を成功させるために必要な条件を満たす製品を要求します。

La Sportivaには常に彼らの希望を聞く者がいて、その不可能にも思えるような夢を、なんらかの形にして叶えようとします。

数年前では、1kgにも満たないカーボン製の靴で山や雪の中、氷や岩の上を走ったりすることは想像もできませんでした。

それでも、Michele Boscacci、William Bon Mardion、Nadier Maguetなどが、まさにそれを実現し、世界で最も重要なスキモーレースに勝つことができました。

FOR YOUR MOUNTAIN



1928年、スポルティバ社は自然豊かな北イタリア、ドロミテ山麓のVal di Fiemmeで創業し、同じ地で現在も山靴の開発・製造を続けています。

現在、イタリア本社には最高水準の自社工場が稼働しています。

地理的な利便性やコストダウンのために、ほとんどのメーカーが生産拠点を海外移転や、外部委託をする中、スポルティバ社は創業以来、この小さな自社工場から製品を送り出し続けています。

また、スポルティバ社は常に自然環境を大切にする企業であり続けようと考えています。環境保護に関する法律の順守はもちろん、製造工程においては廃棄物のリサイクル、ソーラー発電、CO_2の廃棄濾過、100%再生可能エネルギーの使用など社員全員がエコフレンドリーなメーカーとなるべく努力を続けています。

既存の製造工程を厳しく見直すだけでなく、環境にマイナスの影響を与えずに最高の製品を提供する新たな製法の開発にも余念がありません。

スポルティバでは、山を愛する人々が使うものすべてを提供しようというポリシーのもと、総合的なアウトドアブランドとして進化発展しています。ただ製品を作り提供するだけではなく、何より自然を愛し、守っていくブランドでありたいと考えています。

「for your mountain」

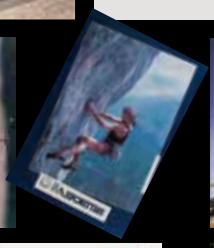
これがスポルティバの願いです。

Lorenzo Delladio

CEO

イタリア本社工場敷地内にあるエコロジーシステム

HISTORY



1928 自宅でその地域の森林や農家で働く人たち向けに木や革で靴を作った創業者ナルシソ・ディラディオは、1928年、革の靴を初めてミラノの専門見本市に出展。これが靴工場SPORTIVA商標としての正式なスタートとなる

1940's 1940年の終わり、特別な靴ひものシステムを生み出し、そのパテントを取得

1950's 息子のフランチェスコがテゼロに1,500㎡の新しい工場を設立

1954 1954年、戦後の最強アルピニストに数えられるソリ・ラセデェリがアチレ・コンパノーニと共にK2の初登頂に成功。LA SPORTIVAのアドバイザリーとなりシグネチャーモデルを共同開発

1960's 新しいコレクションをミラノ見本市でLA SPORTIVAという名前で出展。この見本市の成功が、イタリアのみならずヨーロッパのマーケットにおいてのスタートとなった

1969 ケルンのスポガの見本市で日本との販売契約を結ぶ
この年よりスポルティバ製品の日本への輸入が開始される

1970's 1976年、完全なフラットソールを持つクライミングシューズの革命とも言えるモデル、<スーパーウィンクラー><ヨセミテ>をマーケットに送りだす

1981 当時の技術開発部長ジュリアーノ・ジェリッチとハインツ・マリアッハの共同開発によるマリアッハモデルを発売

1996 ツィアノ・ディ・フィメに工場と本社機能を移転。

2002 冒険登山家シモーネ・モロがオリンポスモンズを履いてエベレスト登頂に成功

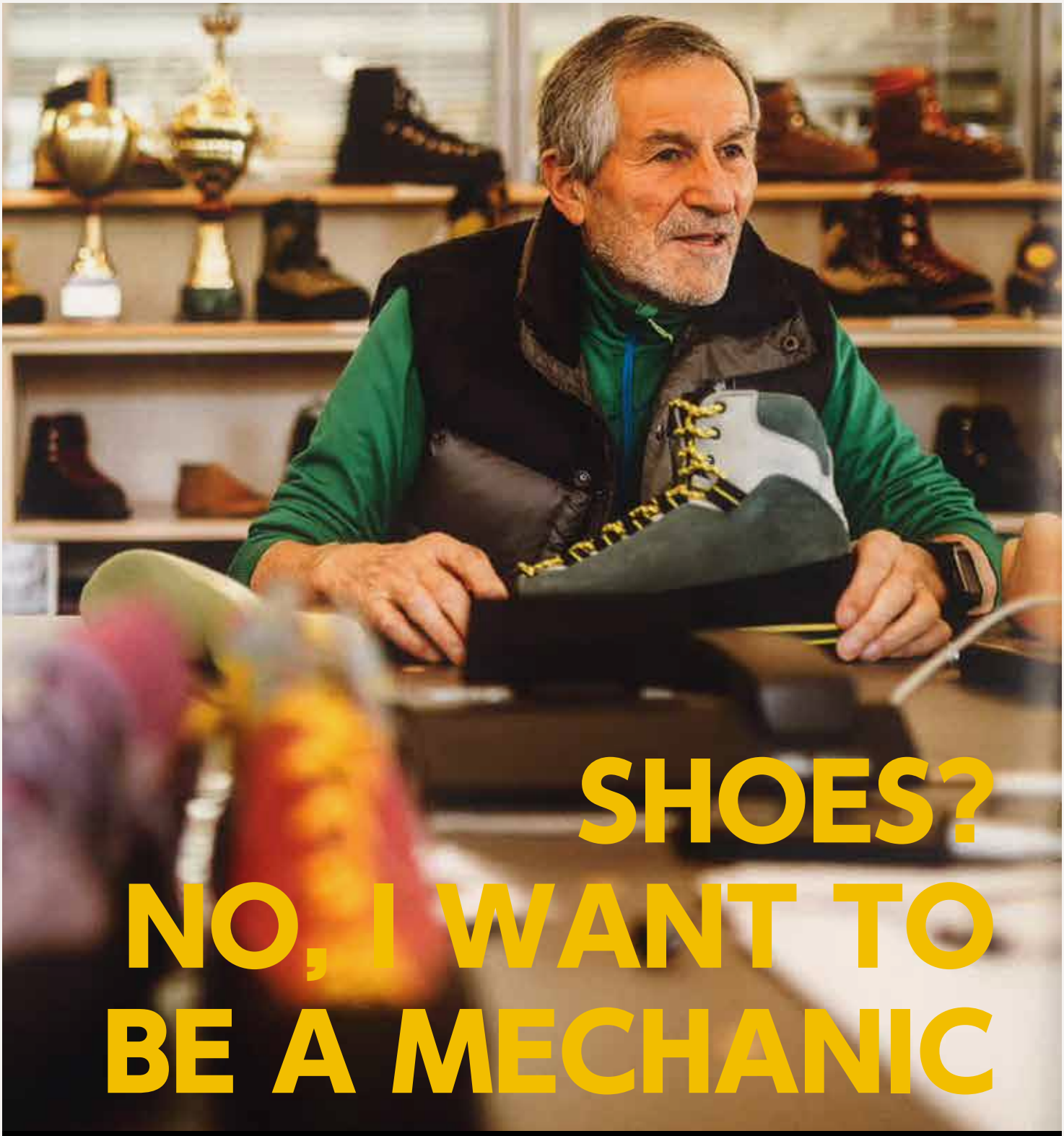
2003 ISO9001／1997,2003年取得
ISO14001／2003年取得

2007 スポルティバジャパン設立。日本全国への販売がスタート

2012 新社屋完成

2013 第3生産ラインを増設

2018 創業90周年。トレントにて大規模な生誕祭を開催



SHOES? NO, I WANT TO BE A MECHANIC

Interview: マスターシューメーカー Giuliano Jelliceno

私の父はLa Sportivaの工場で働いていました。このホームタウンであるVal di Fiemmeで「技術者として働きたい」

それが私のパッションでした。

私は数年ハーモニウムのリペアと修理をする仕事に就きました。そして、さらなる進歩を目指して技術者として勉強しなおすことにしました。その期間も働く必要があったため、親戚のフランチェスコ（La Sportivaのマネジメントを任されていた）に連絡をとり一時的に働かせてもらうことにしました。結局、その後45年間、私はLa Sportivaにいるのです。これは1970年代の出来事でした。

1970年代に私が仕事を始めたとき、クライミングブーツは、フルグレインレザーと、自然由来の防水なめしと固いソールを使用していましたが、徐々に軽さとフリークライミングをするための革新的な技術が必要とされるようになり、より軽量に、より柔らかく、なめらかでしなりのあるソールを採用しました。漫画好きな私は、キャラクターが履く柔らかでしなやかなソールの靴からインスピレーションをもらいました。

そして革新的なクライミングシューズを確立させるため、プロジェクトを開始。この靴の最終目的は何なのか、改善すべき点はどこなのかを自問自答し、テストし続けました。提案をくれるクライマーたちからアイディアを聞き、それを体現し、製品に生かし…。リクエストがいつも実現可能なわけではありませんが、重要なのは、必要性を理解し、そして経験や素材、技術をもとに解決策を見出すことです。

特別なものに終わりはなく、アルピニズムの革新にはいつも新しい商品が必要だと理解しています。マーケットとテクノロジーは進化し続けており、それはすごく早い。そのため、次のステップに向けていつも準備をしていなければなりません。たとえ我々がしたことすべてが未来何年も完璧に働き続けたとしても、常に新しい物のことを考えていなければなりません。

「新しい解決策を見つけなさい。たとえそれが必要のないことだとしても」

これが、innovateの意味です。

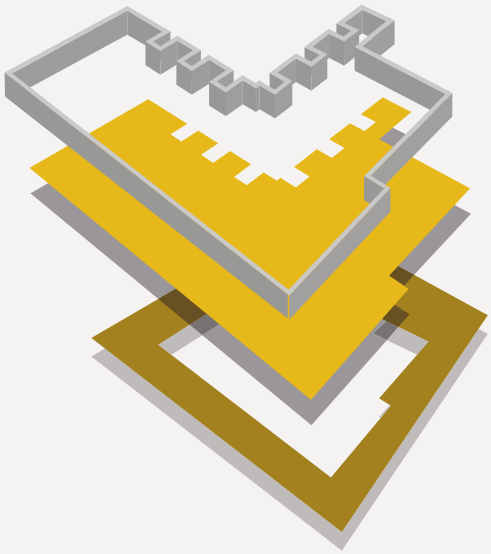
Manufacturing phases

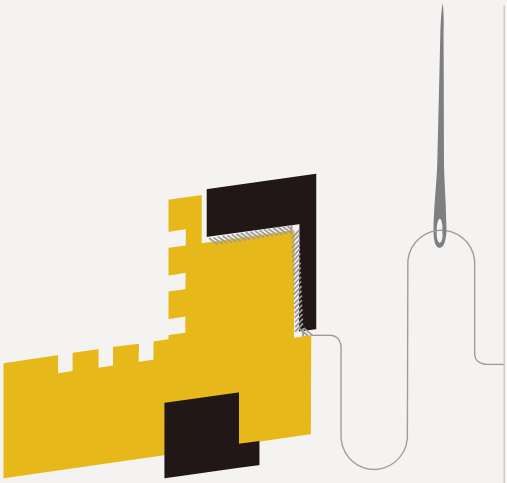
in the shoe making process of La Sportiva shoes and boots

1. Cut

This is the phase from which all the flat components that make up the shoe are obtained.

The raw materials in leather and rubber come in the form of rolls and plates: the operator selects and controls the material with his eyes and hands, positions it under the cutting blade or on automated cutting tables. The shape of the components is given by hundreds of steel punches placed by hand one after the other under the blade to obtain every single piece for every single size. The components are ready for the second phase.





2. Hemming

The assembly by stitching of all the constructive components of the upper.

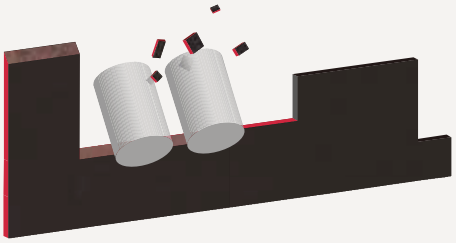
Another way to say extremely high tailoring. Sturdy leathers with a thickness varying from 1 to 3 mm and micro components are sewn by skilled hands with millimeter precision: the performance of the shoe starts from here.

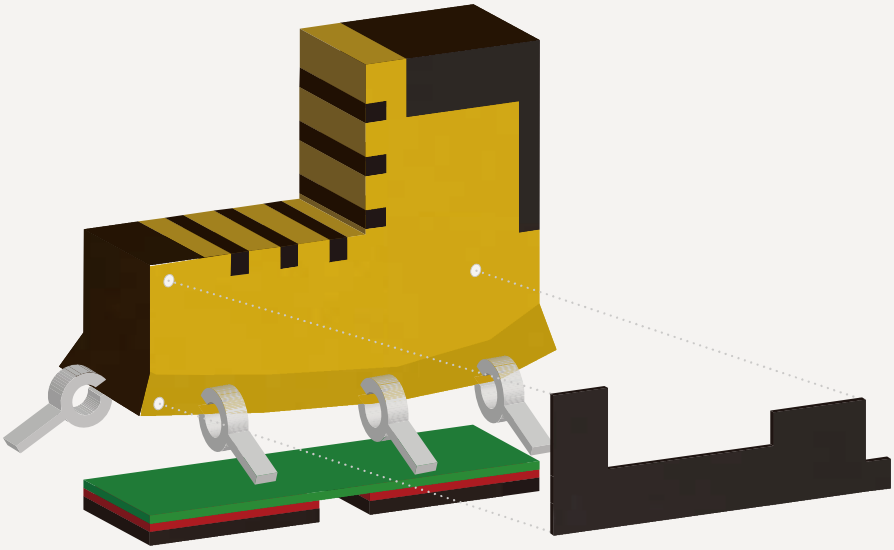
Automation reduced to a minimum: seams are three-dimensional and craftsmanship is the most advanced.

3. Skiving

This is the phase in which all the rubber components are prepared for assembly.

The skiving machines run along each single rubber edge, obtaining zones with differentiated thickness and gradual tapering by means of mechanical abrasion. Careful eyes and hands guide the process which is a crucial phase of high specialization.





4. Assembly

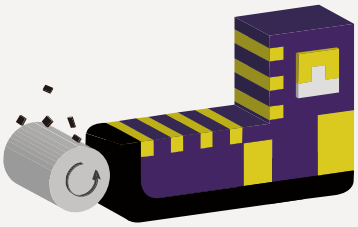
In this phase, the edges and soles are assembled on the uppers.

In a manual process supported by the latest generation of machinery, there are grafting and gluing operations of all the stiffeners on the soft part of the upper. This is where the assembly of midsoles, counters, soles, edges and reinforcements takes place: the sock obtained from the hemming is now a full-fledged shoe with every assembled component. Behind every brushstroke of glue: tightness, elasticity and flexibility of the product.

5. Carding

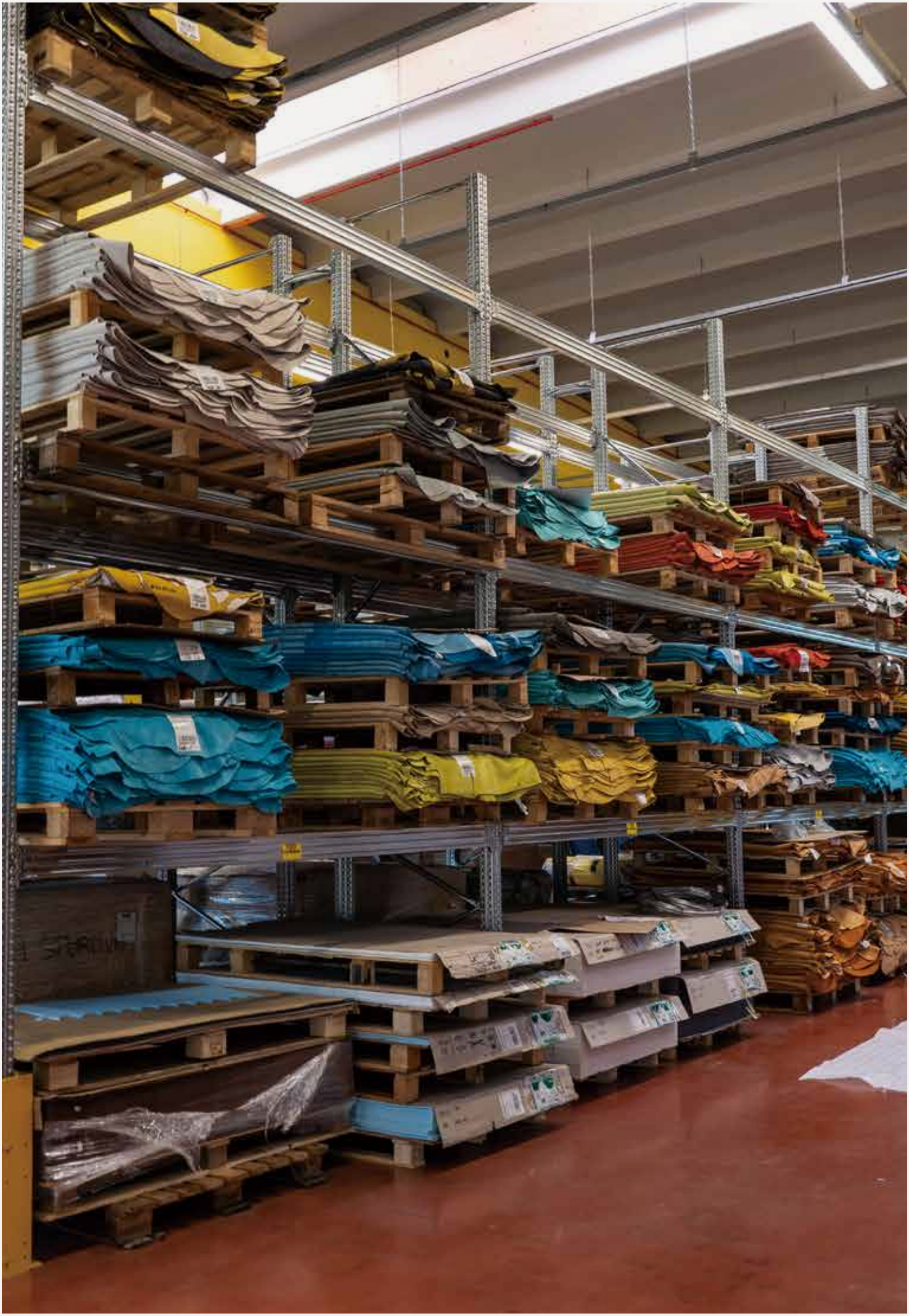
The final touch: each boot and shoe is chiseled to create the correct edge of the sole, going to card (remove) the excess rubber that protrudes from the profile of the shoe.

This process is done by hand to guarantee the particular inclination that each model requires in order to perform correctly on the rock. In those millimeters there is all of La Sportiva.



LA SPORTIVA

LA SPORTIVA
USA
WEST WA



SKWAWA
SKWAWA
SKWAWA
SKWAWA

SPORTIVA JAPAN ATHLETES

Supports Athlete：

SHOGO MOCHIZUKI

山岳ランナー　望月将悟

静岡市消防局勤務、消防士・山岳救助隊員。超長距離、標高差累積の大きなレースを得意とする。2011年初出場「トルデジアン/330km」13位。隔年で開催される日本縦断（富山湾から駿河湾へ）レース、総距離415km以上、標高差累積2万6,000m以上の「トランスジャパンアルプスレース（TJAR®）」に2010年、12年、14年、16年と4連覇。2015年東京マラソンで40ポンド（18Kg）背負って3時間6分16秒で走り、ギネス記録更新。2018年のトランスジャパンアルプスレースには史上初の無補給でレースに挑戦したことが大きな話題となった。

Supports Athlete：

YASUHIRO HANATANI

登山家　花谷泰広

1976年兵庫県生まれ。幼少から六甲山で登山に親しむ。1996年にラトナチュリ峰（ネパール・7035m）に初登頂。以来、世界各地で登山を実践。2012年にキャシャール峰（ネパール・6770m）南ピラー初登攀で、ピオレドール賞を受賞。2015年より若手登山家養成プロジェクト「ヒマラヤキャンプ」を開始、2017年より甲斐駒ヶ岳黒戸尾根の七丈小屋の運営を開始するなど、国内外で幅広く活動中。（日本山岳ガイド協会認定・山岳ガイドステージⅡ）

Supports Athlete：

AKIYO NOGUCHI

プロフリークライマー 野口 啓代

小学5年生の時に家族旅行先のグアムでフリークライミングに出会う。クライミングを初めてわずか1年で全日本ユースを制覇、その後数々の国内外の大会で輝かしい成績を残し、2008年には日本人女性としてボルダリング ワールドカップで初優勝、翌2009年には年間総合優勝、その快挙を2010年、2014年、2015年と4度獲得し、ワールドカップ優勝も通算21勝を数える。2018年にはコンバインドジャパンカップ、アジア競技大会で金メダル。東京2020で行われる複合種目への活躍が期待される日本が誇る世界屈指の女性クライマー。

Supports Athlete：

KEITA WATABE

プロスポーツクライマー 渡部 桂太

小学2年時にクライミングと出会い、12歳からリードの大会に出場し、JFAユース選手権やJOCジュニアオリンピックカップ大会などを制した。高校卒業後は、専門学校に通いながら、ジムや外岩で納得するまでひたすら鍛錬を続けた。その後本格的に競技に専念し、2015年のボルダリング・ジャパンカップで準優勝を飾ると、念願の日本代表入り。2017年ワールドカップ開幕戦のスイス大会で、3位入賞。その後中国大会で初優勝を飾り、年間ランキングでも4位に入り、名実共に世界ランカーの仲間入りを果たした。世界トップクラスの選手と共に鎬を削り、観るものを魅了するクライマーとして木鶏の境地を目指している。

LA SPORTIVA
innovation with passion

Wonderful athletes
supported by
SPORTIVA JAPAN.

CLIMBING

Akiyo Noguchi

Keita Watabe

Ai Mori

Hidemasa Nishida

Hiroto Shimizu

Hutaba Ito

Makoto Yamauchi

Masahiro Higuchi

Mei Kotake

Minoru Nakano

Mishika Ishii

Natsumi Hirano

Ray Sugimoto

Shuta Tanaka

Taisei Ishimatsu

Yuji Inoue

Yuki Hada

MOUNTAIN

Kenji Kondo

Yasuhiro Hanatani

Hirohumi Ishizaka

Kenro Nakajima

Tatsuro Sugimoto

Norihide Yamagishi

Sachi Watanabe

MOUNTAIN RUNNING®

Midori Hoshino

Shogo Mochizuki

Kenji Yoshida

Kenshi Kurihara

Mitsuo Morioka

Nobuya Tani

Takahiro Kurihara

Yumiko Oishi

OTHERS

Yoshiki Kuremoto

and more

Shop List

http://www.sportivajapan.com/shoplist

Publisher SPORTIVA JAPAN CO.,LTD. | **Director** Yoshiharu Sato | **Editor in Chief** Miho Sato | **Designer** Junko Saga | **Photographer** Keisuke Ichinose | © SPORTIVA JAPAN CO.,LTD 本誌掲載の無断複写転用を禁じます。

LA SPORTIVA®
innovation with passion

SPORTIVA JAPAN CO.,LTD. Email. info@sportivajapan.com Tel. 03-3841-6965 Facebook @LaSportivaJapan Instagram @lasportivajp